

徳山・下松港 貿易概況

平成２２年分（速報値）

平成２３年２月４日
徳山税関支署

輸出は３年ぶりのプラス
輸入は２年ぶりのプラス

１．総額

輸出	４，１３０億０９百万円	（＋１０．１％）
輸入	５，７５２億５３百万円	（＋２３．０％）
輸出入差引額	１，６２２億４４百万円の入超 （増減比は前年比、以下同じ。）	

２．輸出

輸出総額は、４，１３０億０９百万円、伸び率＋１０．１％、金額にして３７９億５８百万円の増加で、３年ぶりのプラスとなった。これは金属製品、セメントなどが不振であったものの、合成ゴム、鉄鋼などが好調だったことが主な要因となっている。

品目別動向では中国、アメリカ等向けの合成ゴムが１４３億８６百万円の増加、中国、韓国等向けの鉄鋼が１２８億２９百万円の増加、中国、韓国等向けの有機化合物が１０５億７８百万円の増加、台湾、韓国等向けの無機化合物が４８億９５百万円の増加、中国、インド等向けのプラスチックが４６億８０百万円の増加となった。

一方、韓国、マレーシア等向けの金属製品が９億８４百万円の減少、香港、シンガポール等向けのセメントが８億７６百万円の減少となった。

《増加品目》合成ゴム	３８６億０５百万円	（１４３億８６百万円増、＋５９．４％）
鉄鋼	７５２億２９百万円	（１２８億２９百万円増、＋２０．６％）
有機化合物	１，４２３億４６百万円	（１０５億７８百万円増、＋８．０％）
無機化合物	３６６億９３百万円	（４８億９５百万円増、＋１５．４％）
プラスチック	３７８億７７百万円	（４６億８０百万円増、＋１４．１％）
《減少品目》金属製品	１０億５７百万円	（９億８４百万円減、－４８．２％）
セメント	２５億８５百万円	（８億７６百万円減、－２５．３％）

３．輸入

輸入総額は、５，７５２億５３百万円、伸び率＋２３．０％、金額にして１，０７４億３９百万円の増加で２年ぶりのプラスとなった。これは機械類及び輸送用機器などが減少したものの、輸入品の約８割近くを占める鉱物性燃料の石油製品、原油及び粗油などが増加したことが主な要因となっている。

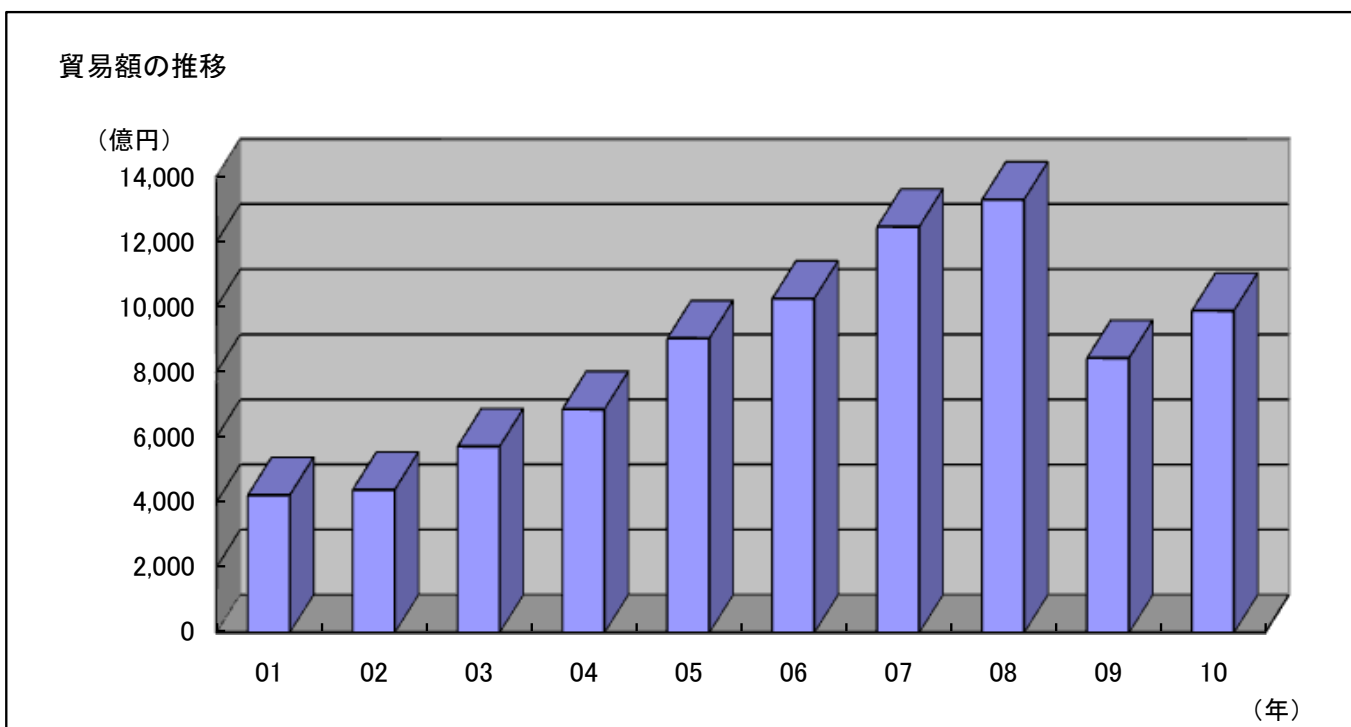
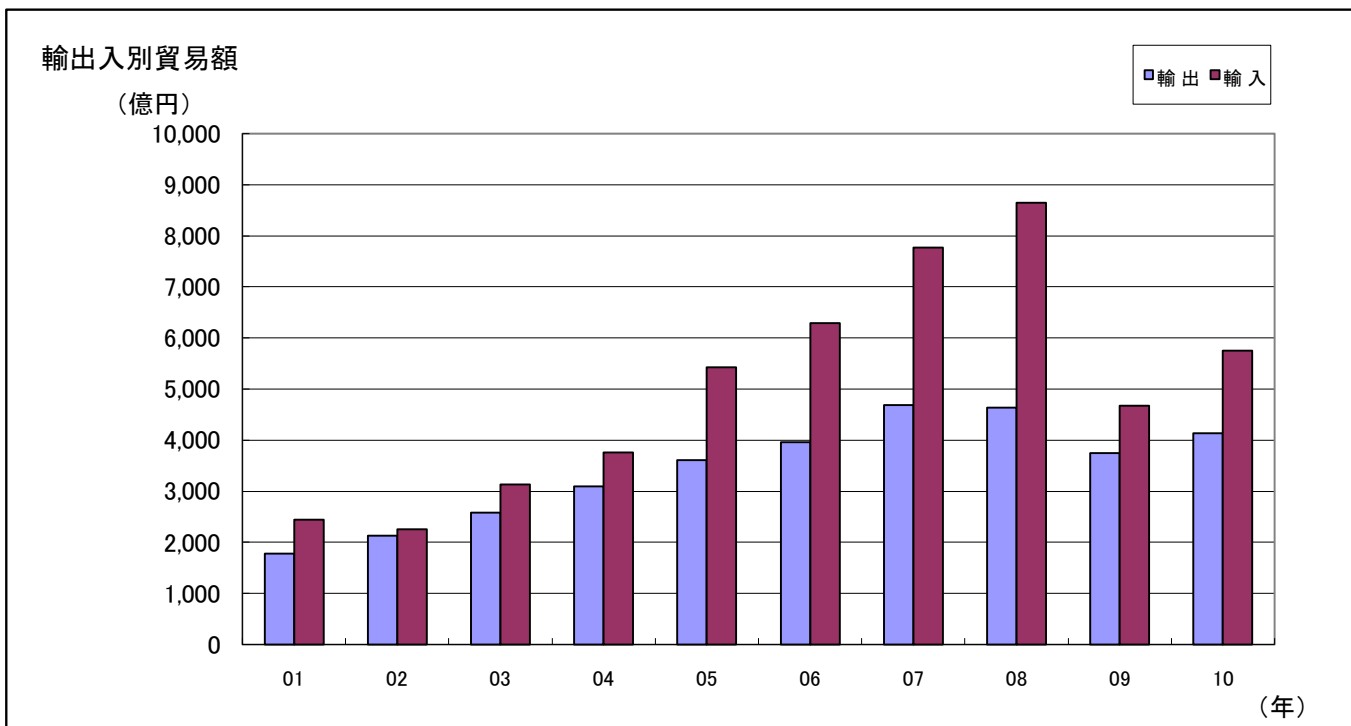
品目別動向では、韓国、サウジアラビア等からの石油製品が４１０億６４百万円の増加、カタール、アラブ首長国連邦等からの原油及び粗油が２３５億９４百万円の増加、南アフリカ、ニューカレドニア等からの鉄鋼が１６４億９６百万円の増加、オーストラリア、インドネシア等からの石炭が６１億６０百万円の増加、韓国、アメリカ等からの鉄鋼くずが５５億９２百万円の増加となった。

一方、中国、台湾等からの機械類及び輸送用機器が１４億１７百万円の減少となった。

《増加品目》石油製品	１，２４９億６１百万円	（４１０億６４百万円増、＋４８．９％）
原油及び粗油	２，３３０億３５百万円	（２３５億９４百万円増、＋１１．３％）
鉄鋼	４５７億６７百万円	（１６４億９６百万円増、＋５６．４％）
石炭	６８１億５７百万円	（６１億６０百万円増、＋９．９％）
鉄鋼くず	１３３億８０百万円	（５５億９２百万円増、＋７１．８％）
《減少品目》機械類及び輸送用機器	４７億０１百万円	（１４億１７百万円減、－２３．２％）

注．この内容を引用されるときは、徳山税関支署発表による旨附記してください。

年別 徳山・下松港貿易額推移グラフ



年	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10
輸出	1,775	2,129	2,578	3,096	3,610	3,965	4,690	4,642	3,751	4,130
輸入	2,441	2,251	3,134	3,759	5,425	6,288	7,772	8,652	4,678	5,753
合計	4,216	4,380	5,712	6,855	9,035	10,253	12,462	13,294	8,429	9,883

(億円)